

今月の農作業

県病害虫防除所発表より 一部抜粋

● 水稲

穂いもち病と紋枯病の発生量は平年並と予想されているが、今後



も気温が高いようなので紋枯病増加の恐れがあり、すでにいもち病斑の見える圃場も多々ある。出穂日は平年並(左記参照)と予想されることから適正な肥培管理や早めの防除で出穂に備える。

斑点米カメムシ類はいずれも多く、たとえ除草していても平年より多数存在しているため要注意。今後は2〜3回の薬剤防除(1回目は出穂10日後頃、2回目はその10〜14日後頃)を実施する。

水管理については、出穂前〜10日後頃まで5cm程度の浅水管理とし、その後は間断灌水が基本だが、30℃以上の高温時は白未熟粒等の品質低下を防ぐためかけ流しを実施する。またフーン現象が予想される時は湛水状態を保ち、稲体の水分消費を防ぐ。

なお、横手市の出穂予想は8月5日頃(5月25日移植)である。早い所では走り穂しており、周辺圃場と差がある場合は害虫駆除を早期に実施すること。

農業倶楽部通信

平成30年 八月号

発行：農業倶楽部
よこて店
H30.7.28 vol.44

営業時間
8:30~17:00
定休日
日曜祝日ほか

● そと

ねぎの黒斑病と葉枯病、きゅうりの斑点細菌病、枝豆のべと病などがやや多い予想。また降雨が少なく気温が高いためハダニ類や害虫は全般に多くなっている。いずれの作物も生理障害の発生が散見され病害虫被害との判別が難しい。適切に予防散布と肥培管理に重点を置く。

● 果樹

りんごではダニ剤散布が遅れ、ナミハダニが激増し特散を実施した園地も多い。近接散布(散布間隔が近い)や高温、混合散布等によって葉の黄化が助長されハダニによる樹勢の低下以上に薬害による落葉や果実品質の低下も懸念されている。

● 減反廃止1年目の現状

この春に、半世紀近く続いた減反政策がいよいよ廃止になった。しかし、今後も各地域の基準に沿って生産調整面積は各農家に示されていく。その面積は需給バランスや価格の安定を考慮して導き出したボーダーラインのようなもので、それを大幅に超えて作付けし余りが起れば、当然ながら米価は低迷するだろう。

戸別所得補償も加工用米の2万円(反当り)のみ継続されているが、当社では加工用米や備蓄米に振り分ける量は大幅に縮小され、準じて主食用米が増加したのは言うまでもない。だが減反廃止を機に作付面積を増やした農家はおらず、多くは成り行きを見守っている状態である。

早くも出穂の時を迎え増収の予感がしているが、米価が落ちれば更に離農者や耕作放棄地が増えることにもなりかねず、それには大規模水田化と作業者の高齢化という2つの局面も関与してくるだろう。米の安定生産と情勢の見極めにはまだまだ時間が必要だ…。



へり防除承ります。
御相談はお早めに!



7/28〜8/27
平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は高い確率70%、2週目は平年並の確率50%、3〜4週目は高い確率40%です。

なお9月は降水量が多いと予想とされ、今年も稲刈り時の長雨が心配されます。病害の蔓延も懸念されますので圃場巡回を行い、適正な管理を心がけましょう。

気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	30	40	30

■(平年)以下 ■並 ■高い (%)

★ 東北地方の1ヶ月天気 ★

◆ お盆期間中の営業時間

・ 8月11日〜13日 休業
・ 14日〜15日 午前のみ営業

※16日から通常営業となりますが18日まで人員を削減致しますので配送希望の方はお早めにご連絡ください。



◎ 編集者のつぶやき...

6、7月と数えるほどしか雨が降らず、いつしか梅雨も明けてしまいましたが、野菜や果樹にとって多すぎると困るのが雨(曇天)ですが、乾燥や高温が続く事も予想以上に作物に負担をかけ、生理障害も多発しています。

人もそうですね。熱中症予防にはこまめな水分摂取が肝心ですヨ★

